

平成29年度 防衛大学校卒業式
防衛大臣訓示

本日ここに安倍内閣総理大臣ご臨席のもと防衛大学校の卒業式が挙行されるにあたり防衛大臣として一言申し上げます。

晴れて卒業の日を迎えた卒業生諸君、卒業おめでとう。そして、今日のこの日を心待ちにされていたご家族の皆様に、心からお祝いを申し上げます。

卒業生諸君は、今日のこの日より、自衛官として最初の一步を踏み出し、国防という崇高な任務に全国各地で当たっている諸先輩たちの隊列に加わることであります。

ここ小原台の地で、卒業生諸君の一人一人は、この4年間、自らの心身を鍛え上げるため、広い視野と科学的思考を身に付けるため、そして豊かな人間性を培うため、あらゆる努力を惜しまなかったことと思います。

諸君におかれては、4年間の努力に自信を持つとともに、同期との間で育んだ友情と信頼を片時も忘れず、困難な任務を全力で全うするという自衛官として、大きく羽ばたいていかれることを切に望みます。

私が、防衛大臣として防衛大卒業生に訓示するのは、平成26年以来4年ぶりとなりますが、今、あらためて日本を取り巻く安全保障環境が、以前より一層厳しさを増していることを痛感いたします。

諸君が承知のとおり、北朝鮮は、この2年間で、3回の核実験を強行し、40発もの弾道ミサイルを発射しました。昨年9月には、広島型原爆の約十倍の推定出力を持つ核実験を強行するとともに、新型のICBM級弾道ミサイルを日本のEEZに撃ち込み、さらに、2度にわたり、何の予告もなく我が国を飛び越える弾道ミサイルの発射を繰り返しています。

また、中国とロシアも、我が国周辺の海空域において、軍事的活動を活発化させており、常にその動向を見逃すことのないよう、注目していく必要があります。

こうした戦後最も厳しいと言っても過言ではない安全保障環境の下、防衛省・自衛隊は、国民の命と平和な暮らしを守り抜くという重責を担っております。この使命を将来にわたって全うすべく、現在、安倍内閣総理大臣の指示の下、本年末を目指し、新たな防衛計画の大綱及び中期防衛力整備計画の検討を進めているところです。検討に当たっては、従来の延長線上ではなく、国民を守るために真に必要な防衛力のあるべき姿を見定めていく考えであります。

卒業生諸君一人一人におかれても、諸君の先輩たちが長年にわたる努力で勝ち得てきた国民の高い期待と厚い信頼に対し、いかにして応えていくべきか、国民を守るために今、何をなすべきか、常に自問自答し、自衛官として真にあるべき姿を不断に追及してほしいと思います。

本年も多く的女子学生が卒業を迎えます。現在、自衛隊において、女性の活躍の場は飛躍的に拡大しています。今月には防衛大女子1期生が、女性自衛官として初めて護衛隊司令に就任し、現在、艦隊を率いて南シナ海への航行に臨んでいるところです。

このように諸君の先輩たちは、女性自衛官が初めて歩む道を切り拓き、後輩の諸君たちを導くともし火となってこられました。諸君らにおかれても、先輩たちの後に続くとともに、女性が未踏の分野にも勇気をもって踏み込んでいくことを期待しております。

9か国26名の留学生の皆さん、諸君がここ小原台で過ごした生活は、母国の生活とは大きく異なり、慣れないこと、戸惑うことも多々あったと思います。そのような中、諸君は、様々な困難を乗り越えただけでなく、各々の学科で優秀な成績を修めました。本日、ここに卒業式を迎えた留学生諸君に、心から敬意を表します。

今後、諸君が本校留学で得た知識や経験を、母国において存分に生かされることを願うとともに、ここで育んだ友情を忘れることなく、母国と日本との友好の架け橋となってくれるよう切に望みます。

最後になりますが、日頃から防衛省・自衛隊、防衛大学校に多大なるご理解・ご協力を賜っております国会議員、地元自治体、関係各国および関係団体からのご来賓の皆さまに対し、深く感謝を申し上げますとともに、これまで学生に対し多大なる情熱と愛情をもって教育に取り組んでこられた國分学校長をはじめとする教職員各位に敬意を表し、私の訓示といたします。

平成30年3月18日
防衛大臣 小野寺 五典